

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	ユービック情報専門学校
設置者名	学校法人 東洋学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="http://www.ubik.ac.jp/2019johokoukai/">http://www.ubik.ac.jp/2019johokoukai/</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="http://www.ubik.ac.jp/2019johokoukai/">http://www.ubik.ac.jp/2019johokoukai/</a>
財産目録	<a href="http://www.ubik.ac.jp/2019johokoukai/">http://www.ubik.ac.jp/2019johokoukai/</a>
事業報告書	<a href="http://www.ubik.ac.jp/2019johokoukai/">http://www.ubik.ac.jp/2019johokoukai/</a>
監事による監査報告（書）	<a href="http://www.ubik.ac.jp/2019johokoukai/">http://www.ubik.ac.jp/2019johokoukai/</a>

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
		工業専門課程	情報学科ICTエンジニアコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1800 単位時間/単位	777 単位時間 /単位	273 単位時間 /単位	822 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1872 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		9人	0人	7人の内 3人	24人の内 2人	5人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>シラバスの作成については、4月に専任・非常勤講師全体の講師会を開き、そこで学校の方針や生徒の情報の共有を計り、この場でシラバスの作成・提出の手順を説明し依頼している。提出されたシラバスは点検後今年度よりホームページで公表する。なお学生に対しては、毎年教務規定の中から成績評価・卒業・進級規定やシラバスの中から抜粋した授業科目の内容等を印刷して履修登録時に配布し、これらの内容を説明告知している。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>（概要）</p> <p>授業を前・後期制とし、各期で中間・期末考査実施し評価を実施している。普段の学習成果を定期考査で計り、出席状況や学習態度・意欲・レポート等で平常点を計り、その合計で評価をしている。</p> <p>成績評価については①中間・期末試験の素点100点満点の70%換算し、②平常点（出席率・課題提出・授業態度等）を30点満点で行い、①と②の合計点を算出し、下記の段階により、優・良・可・不可の評価を行っている。</p> <p>優 100点～90点            良 89点～75点            可 74点～60点            不可 59点～0点</p>

卒業・進級の認定基準
(概要) 年間の出席時数の確認と前期・後期の試験での成績評価による単位認定後、学科ごとに定められた単位数（原則として35時間を1単位とする）の80%以上を取得し、3分の2以上の授業に出席したものに対し、卒業・進級を認定している。
学修支援等
(概要) 前期・後期の中間考査終了後に全学生との個人面談を実施し、成績をはじめ学校生活や家庭生活について指導している。また、5月と7月には保護者と面談を実施し、情報共有を図り共通理解を深めている。特に成績の芳しくない生徒には補習を行い、欠席の多い生徒は補講を実施し出席時数や学力の補充を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
1 人 (100%)	0 人 (%)	1 人 (100%)	0 人 (%)
(主な就職、業界等) ダイシン物流株式会社			
(就職指導内容) 就職セミナー（20時間）で心構え、自己の強みや弱みの発見、時事問題の学習、履歴書・面接等の指導をしている。また先輩からの講話、企業の人事担当者による講話、キャリアアカウンセラーによる保護者対象の進路講演会や生徒向け講話を実施し就職につなげている。また、進路指導や担任での個人相談も随時実施している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 基本情報技術者、ITパスポート、日商PC検定、日本語検定3級			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
5 人	2 人	40.0%
(中途退学の主な理由) 学習意欲の減退による出席時間数不足		
(中退防止・中退者支援のための取組) 個人懇談による相談支援、職員会議を通じての生徒の情報共有、保護者への連絡による家庭との連携等を通じ、問題生徒への対応を行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
		工業専門課程	情報学科総合キャリア アコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1800 単位時間/単位	1137 単位時間 /単位	749 単位時間 /単位	単位時 間/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1886 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		4人	0人	7人の内 4人	24人の内 4人	8人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>シラバスの作成については、4月に専任・非常勤講師全体の講師会を開き、そこで学校の方針や生徒の情報の共有を計り、この場でシラバスの作成・提出の手順を説明し依頼している。提出されたシラバスは点検後今年度よりホームページで公表する。なお学生に対しては、毎年教務規定の中から成績評価・卒業・進級規定やシラバスの中から抜粋した授業科目の内容等を印刷して履修登録時に配布し、これらの内容を説明告知している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>授業を前・後期制とし、各期で中間・期末考査実施し評価を実施している。普段の学習成果を定期考査で計り、出席状況や学習態度・意欲・レポート等で平常点を計り、その合計で評価をしている。</p> <p>成績評価については①中間・期末試験の素点100点満点の70%換算し、②平常点(出席率・課題提出・授業態度等)を30点満点で行い、①と②の合計点を算出し、下記の段階により、優・良・可・不可の評価を行っている。</p> <p>優 100点～90点 良 89点～75点 可 74点～60点 不可 59点～0点</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>年間の出席時数の確認と前期・後期の試験での成績評価による単位認定後、学科ごとに定められた単位数(原則として35時間を1単位とする)の80%以上を取得し、3分の2以上の授業に出席したものに対し、卒業・進級を認定している。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>前期・後期の中間考査終了後に全学生との個人面談を実施し、成績をはじめ学校生活や家庭生活について指導している。また、5月と7月には保護者と面談を実施し、情報共有を図り共通理解を深めている。特に成績の芳しくない生徒には補修を行い、欠席の多い生徒は補講を実施し出席時数や学力の補充を行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
1 人 (100%)	0 人 (%)	1 人 (%)	0 人 (100%)
(主な就職、業界等) 都市環境整美株式会社			
(就職指導内容) 就職セミナー（20 時間）で心構え、自己の強みや弱みの発見、時事問題の学習、履歴書・面接等の指導をしている。また先輩からの講話、企業の人事担当者による講話、キャリアアカウンセラーによる保護者対象の進路講演会や生徒向け講話を実施し就職につなげている。また、進路指導や担任での個人相談も随時実施している			
(主な学修成果（資格・検定等）) 日商簿記検定 3 級、全経簿記能力検定 2 級、リテールマーケティング 3 級、色彩検定 3 級、IT パスポート、日商 PC 検定、秘書検定			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
3 人	0 人	0 %
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
		工業専門課程	情報学科医療秘書コース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1800 単位時間/単位	848 単位時間 /単位	93 単位時間 /単位	単位時 間/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			941 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		2人	0人	7人の内 2人	24人の内 4人	6人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>シラバスの作成については、4月に専任・非常勤講師全体の講師会を開き、そこで学校の方針や生徒の情報の共有を計り、この場でシラバスの作成・提出の手順を説明し依頼している。提出されたシラバスは点検後今年度よりホームページで公表する。なお学生に対しては、毎年教務規定の中から成績評価・卒業・進級規定やシラバスの中から抜粋した授業科目の内容等を印刷して履修登録時に配布し、これらの内容を説明告知している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>授業を前・後期制とし、各期で中間・期末考査実施し評価を実施している。普段の学習成果を定期考査で計り、出席状況や学習態度・意欲・レポート等で平常点を計り、その合計で評価をしている。</p> <p>成績評価については①中間・期末試験の素点100点満点の70%換算し、②平常点(出席率・課題提出・授業態度等)を30点満点で行い、①と②の合計点を算出し、下記の段階により、優・良・可・不可の評価を行っている。</p> <p>優 100点～90点  良 89点～75点  可 74点～60点  不可 59点～0点</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>前期・後期の試験により「教務の手引き」に示したとおり、出席時数の確認と単位認定後、学科ごとに定められた単位数の80%以上を取得し、3分の2以上の授業に出席したのに対し、卒業・進級を認定している</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>前期・後期の中間考査終了後に全学生との個人面談を実施し、成績をはじめ学校生活や家庭生活について指導している。また、5月と7月には保護者と面談を実施し、情報共有を図り共通理解を深めている。特に成績の芳しくない生徒には補修を行い、欠席の多い生徒は補講を実施し出席時数や学力の補充を行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
3 人 (100%)	0 人 (%)	3 人 (100%)	0 人 (%)
（主な就職、業界等） 株式会社 社会福祉総合研究所、株式会社ソラスト、調剤薬局			
（就職指導内容） 就職セミナー（20 時間）で心構え、自己の強みや弱みの発見、時事問題の学習、履歴書・面接等の指導をしている。また先輩からの講話、企業の人事担当者による講話、キャリアカウンセラーによる保護者対象の進路講演会や生徒向け講話を実施し就職につなげている。また、進路指導や担任での個人相談も随時実施している			
（主な学修成果（資格・検定等）） 診療報酬請求事務能力認定試験、医療事務管理士、医療秘書技能検定 2 級、秘書検定 3 級、調剤・介護事務管理士、IT パスポート			
（備考）（任意記載事項） 今年度は 2 年生が在学していないので、1 年生の授業時数だけの記載になっています。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
3 人	0 人	0 %
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組）		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
		工業専門課程	電気工学学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1800 単位時間/単位	713 単位時間 /単位	470 単位時間 /単位	696 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1879 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
100人		22人	1人	7人の内 2人	24人の内 7人	9人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) シラバスの作成については、4月に専任・非常勤講師全体の講師会を開き、そこで学校の方針や生徒の情報の共有を計り、この場でシラバスの作成・提出の手順を説明し依頼している。提出されたシラバスは点検後今年度よりホームページで公表する。 なお学生に対しては、毎年教務規定の中から成績評価・卒業・進級規定やシラバスの中から抜粋した授業科目の内容等を印刷して履修登録時に配布し、これらの内容を説明告知している。
成績評価の基準・方法
(概要) 授業を前・後期制とし、各期で中間・期末考査実施し評価を実施している。普段の学習成果を定期考査で計り、出席状況や学習態度・意欲・レポート等で平常点を計り、その合計で評価をしている。 成績評価については①中間・期末試験の素点100点満点の70%換算し、②平常点(出席率・課題提出・授業態度等)を30点満点で行い、①と②の合計点を算出し、下記の段階により、優・良・可・不可の評価を行っている。 優 100点～90点 良 89点～75点 可 74点～60点 不可 59点～0点
卒業・進級の認定基準
(概要) 年間の出席時数の確認と前期・後期の試験での成績評価による単位認定後、学科ごとに定められた単位数(原則として35時間を1単位とする)の80%以上を取得し、3分の2以上の授業に出席したものに対し、卒業・進級を認定している。
学修支援等
(概要) 前期・後期の中間考査終了後に全学生との個人面談を実施し、成績をはじめ学校生活や家庭生活について指導している。また、5月と7月には保護者と面談を実施し、情報共有を図り共通理解を深めている。特に成績の芳しくない生徒には補修を行い、欠席の多い生徒は補講を実施し出席時数や学力の補充を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
8 人 (100%)	0 人 ( 0%)	7 人 (87.5%)	1 人 (12.5%)
（主な就職、業界等） 内外電気（株）、（株）マイスターエンジニアリング、昭和電業（株）、 ウイングエンジニアリング（株）、（株）エムズ			
（就職指導内容） 就職セミナー（20 時間）で心構え、自己の強みや弱みの発見、時事問題の学習、履歴書・ 面接等の指導をしている。また先輩からの講話、企業の人事担当者による講話、キャリア アカウンセラーによる保護者対象の進路講演会や生徒向け講話を実施し就職につなげて いる。また、進路指導や担任での個人相談も随時実施している			
（主な学修成果（資格・検定等）） 第 2 種電気工事士（全員）第 1 種電気工事士、工事担任者、特殊無線技士 危険物取扱主任者、消防設備士			
（備考）（任意記載事項） その他 1 名は、就労移行支援事業所で人とのコミュニケーション力の訓練をする。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
14 人	0 人	0 %
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組）		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
		工業専門課程	医療情報システム学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2700 単位時間/単位	2133 単位時間 /単位	676 単位時間 /単位	単位時 間/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			2809 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		7人	0人	7人の内 3人	24人の内 10人	13人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) シラバスの作成については、4月に専任・非常勤講師全体の講師会を開き、そこで学校の方針や生徒の情報の共有を計り、この場でシラバスの作成・提出の手順を説明し依頼している。提出されたシラバスは点検後今年度よりホームページで公表する。 なお学生に対しては、毎年教務規定の中から成績評価・卒業・進級規定やシラバスの中から抜粋した授業科目の内容等を印刷して履修登録時に配布し、これらの内容を説明告知している。
成績評価の基準・方法
(概要) 授業を前・後期制とし、各期で中間・期末考査実施し評価を実施している。普段の学習成果を定期考査で計り、出席状況や学習態度・意欲・レポート等で平常点を計り、その合計で評価をしている。 成績評価については①中間・期末試験の素点100点満点の70%換算し、②平常点(出席率・課題提出・授業態度等)を30点満点で行い、①と②の合計点を算出し、下記の段階により、優・良・可・不可の評価を行っている。 優 100点～90点 良 89点～75点 可 74点～60点 不可 59点～0点
卒業・進級の認定基準
(概要) 年間の出席時数の確認と前期・後期の試験での成績評価による単位認定後、学科ごとに定められた単位数(原則として35時間を1単位とする)の80%以上を取得し、3分の2以上の授業に出席したものに対し、卒業・進級を認定している。
学修支援等
(概要) 前期・後期の中間考査終了後に全学生との個人面談を実施し、成績をはじめ学校生活や家庭生活について指導している。また、5月と7月には保護者と面談を実施し、情報共有を図り共通理解を深めている。特に成績の芳しくない生徒には補修を行い、欠席の多い生徒は補講を実施し出席時数や学力の補充を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
5 人 (100%)	0 人 (%)	4 人 (80%)	1 人 (20%)
（主な就職、業界等） 宝塚病院、医誠会病院、（株）ソラスト			
（就職指導内容） 就職セミナー（20 時間）で心構え、自己の強みや弱みの発見、時事問題の学習、履歴書・面接等の指導をしている。また先輩からの講話、企業の人事担当者による講話、キャリアアカウンセラーによる保護者対象の進路講演会や生徒向け講話を実施し就職につなげている。また、進路指導や担任での個人相談も随時実施している			
（主な学修成果（資格・検定等）） 診療情報管理士、診療報酬請求事務能力認定試験、医療事務管理士、医療秘書技能検定 2 級、秘書検定 3 級、調剤・介護事務管理士、IT パスポート			
（備考）（任意記載事項） その他の 1 名は、身体障害者支援の訓練所に入所。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
12 人	1 人	8.3%
（中途退学の主な理由） この 1 年間体調不良のため休学していたが、体調が戻らず復学の見通しが立たないため。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 家庭との連絡を取り、家での様子や今後の見通しなどを話し合い、復学の見通しなど情報交換をする。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
		工業専門課程	デジタル制御システム学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2700 単位時間/単位	669 単位時間 /単位	650 単位時間 /単位	1513 単位時間 /単位		
			2832 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		7人	0人	7人の内 4人	24人の内 4人	8人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>シラバスの作成については、4月に専任・非常勤講師全体の講師会を開き、そこで学校の方針や生徒の情報の共有を計り、この場でシラバスの作成・提出の手順を説明し依頼している。提出されたシラバスは点検後今年度よりホームページで公表する。なお学生に対しては、毎年教務規定の中から成績評価・卒業・進級規定やシラバスの中から抜粋した授業科目の内容等を印刷して履修登録時に配布し、これらの内容を説明告知している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要) 授業を前・後期制とし、各期で中間・期末考査実施し評価を実施している。普段の学習成果を定期考査で計り、出席状況や学習態度・意欲・レポート等で平常点を計り、その合計で評価をしている。</p> <p>成績評価については①中間・期末試験の素点100点満点の70%換算し、②平常点(出席率・課題提出・授業態度等)を30点満点で行い、①と②の合計点を算出し、下記の段階により、優・良・可・不可の評価を行っている。</p> <p>優 100点～90点  良 89点～75点  可 74点～60点  不可 59点～0点</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>年間の出席時数の確認と前期・後期の試験での成績評価による単位認定後、学科ごとに定められた単位数(原則として35時間を1単位とする)の80%以上を取得し、3分の2以上の授業に出席したものに対し、卒業・進級を認定している。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>前期・後期の中間考査終了後に全学生との個人面談を実施し、成績をはじめ学校生活や家庭生活について指導している。また、5月と7月には保護者と面談を実施し、情報共有を図り共通理解を深めている。特に成績の芳しくない生徒には補修を行い、欠席の多い生徒は補講を実施し出席時数や学力の補充を行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
2 人 (100%)	0 人 (  %)	2 人 (100%)	0 人 (  %)
（主な就職、業界等） 株式会社ワールドインテック、（株）アルプス技研			
（就職指導内容） 就職セミナー（20 時間）で心構え、自己の強みや弱みの発見、時事問題の学習、履歴書・面接等の指導をしている。また先輩からの講話、企業の人事担当者による講話、キャリアアカウンセラーによる保護者対象の進路講演会や生徒向け講話を実施し就職につなげている。また、進路指導や担任での個人相談も随時実施している			
（主な学修成果（資格・検定等）） 応用情報技術者、基本情報技術者、ITパスポート、デジタル技術検定3級 日商PC検定			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
5 人	0 人	0 %
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組）		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
		工業専門課程	ビジネス情報システム学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2700 単位時間/単位	1798 単位時間 /単位	1034 単位時間 /単位	単位時 間/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			2832 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		6人	0人	7人の内 4人	24人の内 5人	9人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>シラバスの作成については、4月に専任・非常勤講師全体の講師会を開き、そこで学校の方針や生徒の情報の共有を計り、この場でシラバスの作成・提出の手順を説明し依頼している。提出されたシラバスは点検後今年度よりホームページで公表する。なお学生に対しては、毎年教務規定の中から成績評価・卒業・進級規定やシラバスの中から抜粋した授業科目の内容等を印刷して履修登録時に配布し、これらの内容を説明告知している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要) 授業を前・後期制とし、各期で中間・期末考査実施し評価を実施している。普段の学習成果を定期考査で計り、出席状況や学習態度・意欲・レポート等で平常点を計り、その合計で評価をしている。</p> <p>成績評価については①中間・期末試験の素点100点満点の70%換算し、②平常点(出席率・課題提出・授業態度等)を30点満点で行い、①と②の合計点を算出し、下記の段階により、優・良・可・不可の評価を行っている。</p> <p>優 100点～90点  良 89点～75点  可 74点～60点  不可 59点～0点</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>年間の出席時数の確認と前期・後期の試験での成績評価による単位認定後、学科ごとに定められた単位数(原則として35時間を1単位とする)の80%以上を取得し、3分の2以上の授業に出席したものに対し、卒業・進級を認定している。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>前期・後期の中間考査終了後に全学生との個人面談を実施し、成績をはじめ学校生活や家庭生活について指導している。また、5月と7月には保護者と面談を実施し、情報共有を図り共通理解を深めている。特に成績の芳しくない生徒には補修を行い、欠席の多い生徒は補講を実施し出席時数や学力の補充を行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (100%)	0 人 ( %)	0 人 ( %)	0 人 ( %)
（主な就職、業界等） 今年度第1期生が卒業予定のため、現在就職実績はない			
（就職指導内容） 就職セミナー（20時間）で心構え、自己の強みや弱みの発見、時事問題の学習、履歴書・面接等の指導をしている。また先輩からの講話、企業の人事担当者による講話、キャリアアカウンセラーによる保護者対象の進路講演会や生徒向け講話を実施し就職につなげている。また、進路指導や担任での個人相談も随時実施している			
（主な学修成果（資格・検定等）） 日商簿記検定2級、全経簿記能力検定1級、リテールマーケティング3級、色彩検定3級、ITパスポート、基本情報技術者、日商PC検定、秘書検定			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
4 人	0 人	0 %
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組）		

## ②学校単位の情報

### a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
全学科共通	100,000 円	630,000 円	320,000 円	施設設備費・実習費
	円	円	円	
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援 (任意記載事項)				
ユービック特待生制度として授業料減免制度を設けている。内容はユービックでの1年間の授業への出席率が良好であり、各種検定での合格という学習成果に応じてS・A・Bの3段階でのランクをつけ、選考会議と面接選考を経てユービック特待生として授業料の減免を行っている。				

### b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="http://www.ubik.ac.jp/2019johokoukai/">http://www.ubik.ac.jp/2019johokoukai/</a>		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 学校関係者評価委員 5 名により評価委員会を年 3 開催する。主な評価項目としては、教育課程、学習指導、進路指導等を予定。評価結果については教頭を責任者として全教職員で、次年度の学校運営に活かしていく。		
学校関係者評価の委員 学校関係者評価を確実に実施し、2020年度からその結果を公表するために委員の選任を行う。		
所属	任期	種別
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 2020年度から評価を確実に公表する。		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

### c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="http://www.ubik.ac.jp/2019johokoukai/">http://www.ubik.ac.jp/2019johokoukai/</a>
--